



横浜市立城郷小学校  
明治33年6月創立

# 学校だより

めざす子ども像

令和3年11月26日

12月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆



## 教えて身につけさせたいこと

こうちょう さんべい あつし  
校長 三瓶 淳

今年も早いもので「師走」を迎えます。昨年は、県境をまたぐ移動を自粛し帰省を諦めたため、自宅で年末年始を過ごしましたが、今年は両親と過ごせる安堵感があります。一年後もさらに改善されていることを願うばかりです。

さて、先月号の学校だよりも書きましたが、お子さんの地域での歩き方や挨拶について、その後の変化や成長は感じられましたでしょうか。子どもたちには朝会の中でも話をしました。素直な子どもたちなので、学校前の歩道ではスッと校舎側に寄って2列で歩いたり、私のところまで近づいて来てから、ペこりと頭を下げて挨拶したりする子も増えてきました。とても清々しく1日が始まります。しかし、下校時はどうでしょう。正門を出るや否や複数人で走って帰る子、中には追いかけてこのように走り続ける子も。そして挨拶をする子は激減します。朝との違いに心の中でため息が出ます。善い事が身につくには時間がかかりそうですね。校内では、活動が徐々に戻りつつある中、出会い頭の衝突による怪我也増えてきています。師走の街は、車の交通量も増えてきます。道路の横断や歩行のルールやマナーについて、学校と手を携え、子どもたちに教えていきましょう。

ところで、マナーについては他人に「迷惑をかけない」という言葉が、最近では周囲の人に「迷惑をかけなければいい」と解釈され、様々な場面で「ん？」ということが起こってきているように感じます。子どもには、教えなくても身につくこともあります。しかし、親や大人が、きちんとしつけないと分からないことも多くあります。先日、米大リーグのア・リーグ MVP を獲得した大谷翔平選手は、その成績もさることながら、神対応と呼ばれる言動にも大きな注目を集めました。

「球場に落ちていたごみを拾う」「折れて飛んできたバットを相手に手渡す」「交代させられたピッチャーに近寄り声をかける」などのことを自然に行っていました。大谷選手のご両親が、どのように育ててきたのか知りたくなるばかりです。親がわが子を育てていく中で注ぐ愛情の意味とは、『我が子が成人した時に困らないようにしてあげること』なのではないでしょうか。義務教育、特に小学校課程を受けている間に、目の前にやってくる機会に自らの手で挑戦をし、たくさんの成功や失敗を繰り返しながら成人して行って欲しいと願うばかりです。学級や学校は、失敗をしてもよい場所なのでから。

12月4日～10日は人権週間です。6日(月)～10日(金)は、子どもたちの「**自尊心**」を育む授業を全学年で取り組んでいきます。「分かる・認められる・褒められる・役に立つ・最後までできる」などがキーワードです。最後になりますが、上皇后美智子様のお言葉を引用して結びにします。

～「**幸せな子**」を育てるのではなく、**どんな境遇におかれても「幸せになれる子**」を育てたい～